

J Aバンク補助教材の概要等について

1. J AバンクとJ Aバンクアグリ・エコサポート基金のご紹介

○J Aバンクについて (<https://www.jabank.org/>)

J Aバンクは全国に民間金融機関として最大級の店舗網を展開しているJ Aバンク会員（J A・信連・農林中央金庫）で構成するグループの名称です。

J Aバンクでは、組合員や地域利用者、企業等の皆様のお役に立つ金融サービスの提供に努めています。

○J Aバンクアグリ・エコサポート基金 (<http://www.jabank-aes.or.jp/>)

本教材の発行者であるJ Aバンクアグリ・エコサポート基金（以下「当基金」といいます）は、J AバンクのCSR事業である「J Aバンクアグリサポート事業」の実施主体として平成19年10月に設立されました。

当基金では、本事業における全国向け補助教材の発行や各都道府県のJ A等が制作する教材本制作への助成事業等を行っております。

なお、J Aバンクアグリサポート事業の取組みについては、農林中央金庫のウェブサイト (<https://www.nochubank.or.jp/>) に掲載されている「サステナビリティ報告書」の中でも紹介しております。

2. 教材のご紹介

(1) 概要

○J Aバンク補助教材「農業とわたしたちの暮らし」

小学校（5年生を中心とする高学年）の授業で活用していただくことを目的に、食農教育・環境教育などを基本テーマとした補助教材です。平成20年度から全国の小学校に配布させていただいております。

また、平成24年度からは、特別な支援を必要とする児童・生徒向けに、ユニバーサルデザインの考えに基づいた「特別支援教育版」を、申し込みいただいた学校に配布させていただいております。

私たちの生活に欠かせない「食」と「農業」、また「環境」と「農業」の密接なかかわりや、各家庭に食を届けるための流通、農畜産物の全国の産地等について、イラスト・写真・グラフをふんだんに使いながら総合的に学習することで、農業に対する理解を多面的に広げていくことを狙いとしております。社会科を中心に総合的な学習、家庭科等の内容についても取り入れております。

(2) ご活用方法

- ・ 補助教材と一緒に授業における具体的な指導方法等を記した教師用の指導書を贈呈いたします。
- ・ それぞれ単元や章ごとに独立したテーマを設定しておりますので、個別に取り上げていただくことも可能です。
- ・ 子どもたちが関心をもって自ら考え、話し合い、まとめられるよう構成しています。授業のなかで、教科書と組み合わせてご活用いただけます。

- ・ 日本全体の農業を扱っていますので、地域の農業を学習する教材と一緒にご活用いただくことで、農業に対する理解を深めていくことができます。

【ご参考】 J Aバンク補助教材「農業とわたしたちの暮らし」について



【児童用】



【教師用】



【DVD】



【特別支援教育版】

1. 2023年度版・JAバンク補助教材 主なポイント

2019年度版より新学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」の趣旨を踏まえ、子どもたちが話し合いながら、自己の考えや理解を深めることができるようになっていきます。今回の改訂では、単元ごとの「ふかめる」や自由研究の部分に、食品ロスや持続可能な農業に関する話題を追加しました。後半には、SDGsのテーマを、農業の発展や新しい取組などと紐づけて考えられるように一部改訂しています。

主に社会科の第5学年の学習内容との関連を図りながら構成されており、家庭科や総合的な学習の時間などでも活用することができます。

2. これまで本教材を活用していただいた先生・児童からの声

(1) 先生方からのアンケート結果

J Aバンクの補助教材に対して全国の先生方からアンケートをいただきました。そのなかからご意見の一部をご紹介します。

○校区のまわりに水田がほとんどないので、J Aを知る機会にもなり、子どもたちも興味を持ちやすく、よいと思いました。

○DVDがあることで映像で確認でき、児童の反応もよかったです。教科書の写真が動いているところが見られました。クイズもあっておもしろく楽しく学びました。

○農業のさかんな町なので、子どもたちの身近に農業はありますが、今回のような教材をいただくことによって、より深く知ろう、広く知ろうと思う機会になり、ありがたいです。

○日本の食料生産を支えるJ Aさんの姿を子どもたちが感じ取ることができ、子どもたちにとってよい学びになりました。

(2) 児童感想文の概要

J Aバンクの補助教材に対して全国の児童から感想文をいただきました。そのなかから感想の一部をご紹介します。

○僕はこの冊子を読んで、農業についてくわしく知ることができました。地形や気候によって、生産される農産物にちがいがあることや、農産物がどのように僕たちのもとへ届くのか、絵や写真で見ることで、とてもよく分かりました。僕が一番気になったのは、「スマート農業」のところでした。人が乗らずに農作業を行うトラクターやラジコンで動く草刈り機が開発されていると知り、おもしろいと思いました。農業にはさまざまな努力や工夫があるのだと思いました。

○私たちがいつも食べている給食などは農家の人の苦勞がなければ食べれないことがよく分かりました。特に、米作りは大変そうだと思います。なぜなら、水の管理がむずかしそうだったからです。田植え体験をして実感してみたいです。今後、いただきますと言うときは、感謝をこめていいと思います。

○このさっしを読んでおどろいたことは、日本が以外と外国からの輸入にたよっているということです。特におどろいたのは、大豆です。日本は、とうふやえだ豆などたくさんの物を大豆から作っているのだから、原料となる大豆は生産量が多いのかなと思っていたからです。また、化学農薬を使わないように工夫していることはより安全な品質になるためにとっても大切なことだと思います。日々わたしたちの食べ物を作ってくれる農家さんたちにかんしゃして、食べ物を食べたいです。

○私は、野菜のトマトがきらいだったけど、農家の人が大切に育てていたからすききらいをせず食べたいです。トマトはいろんな形があつておもしろかったです。農家の人はどんどん少なくなっていて大変だなと思いました。稲かりをするときはかまだけかと思っていたけどいろんな道具があるのが分かりました。

○お米ができるまでには、いろんなことを、農家さんががんばっていることが分かりました。牛肉や牛にゅうを、食べたりすることでのちをいただいていることが分かりました。お米をたいせつに育てている農家さんたちががんばって育ててくれたご飯をのこさずに食べます。

以上